

4 - 12 和歌山地方の上下変動

Vertical movements in Wakayama District

国土地理院地殻調査部

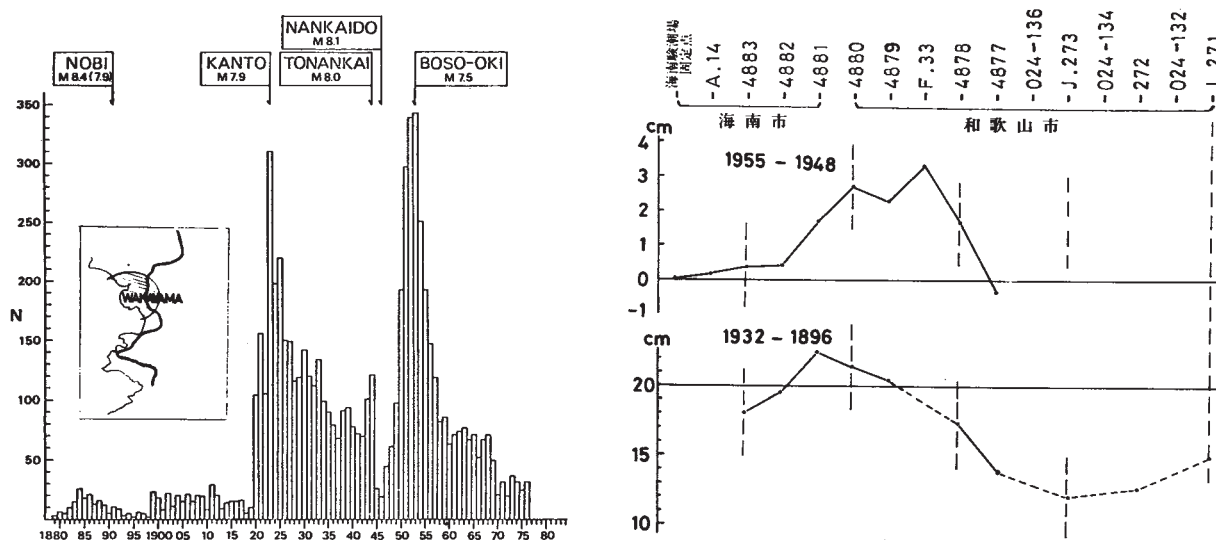
Crustal Dynamics Division, Geographical Survey Institute

1977年1月16日から17日にかけて和歌山に有感地震を含む地震の群発があった。

この地震自体としてはそれ程大きなものでないが、東海地震や、房総沖地震の危険が社会的関心を集めている時期なので、この問題と関連して和歌山の地震活動が注目された。すなわら、この地域では、1923年の関東大地震、1955年の房総沖地震の前に和歌山で地震活動が盛んであったことが金森によって指摘されている。

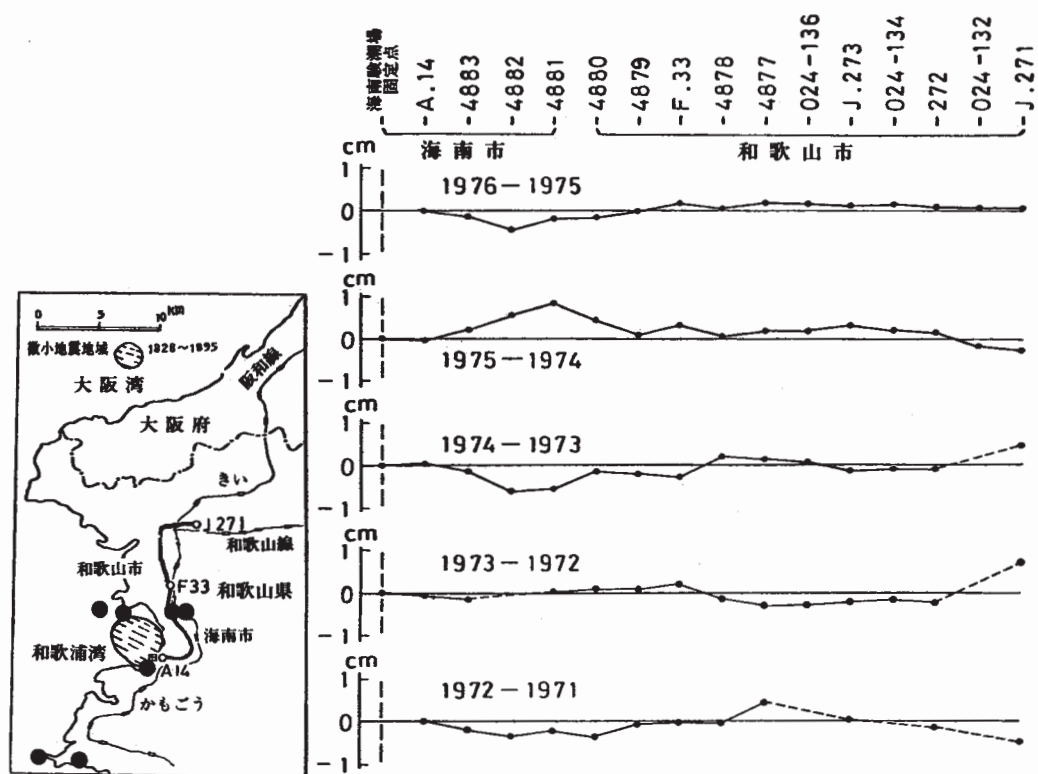
第1図は、気象庁の資料による和歌山の地震活動の消長を示したもので、関東大地震、房総沖地震の数年前から地震の数が急に増大している。ここで注目されることは、この地震活動の活発化に対応して、震源域で顕著な地殻隆起が観測されていることである。

このため、今回の地震に関連して、和歌山附近の上下変動を調査したものを第2図に示している。図によると、1971年から1976年の期間では、震源域附近の水準点に特に大きな変動は認められない。



第1図 関東大地震（1923）、房総沖地震（1955）前後の和歌山附近の地震活動と地殻上下変動

Fig. 1 Seismic activity around Wakayama City before and after the Kanto Earthquake (1923) and Boso-Oki Earthquake (1955), and vertical movements at those epochs.



第2図 1971～'76の和歌山附近の地殻上下変動

Fig. 2 Vertical movements during the period of 1971-76.